

ハマヤガ

チョウ目ヤガ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

Agrotis ripae albovenosa Tschetverikow

選定理由

全国的な希少種で、生息地が自然環境に恵まれた砂浜海岸に限定される。本県の生息地は加賀海岸のみである。

形態

開張32mmの中型のガである。前翅は一様に淡褐色であるが、後翅はさらに淡色である。

国内分布

これまでに新潟県の数箇所および秋田県、石川県で各1箇所が知られているに過ぎない。

県内分布

2006年に加賀市塩屋海岸において初めて発見された。

生態

成虫は8月下旬から9月に出現する。幼虫の食草はカワラヨモギで晩秋までには老熟し、老熟幼虫のまま砂の中で越冬する。老熟幼虫は翌年の7月に蛹化する。

生息地の条件

海浜性のガで、既知産地はすべて砂浜海岸や海岸後背地、河口付近である。海浜植生が豊富で、カワラヨモギ群落が発達していることが重要である。

生存の危機

砂浜海岸の植生破壊は本種を絶滅させることとなる。既知産地の塩屋海岸は良好な自然環境が保たれているが、他の砂浜海岸では護岸工事等による海浜植生の破壊が進んでいる。護岸工事を実施する場合、海浜植生に配慮すべきである。(A)

特記事項

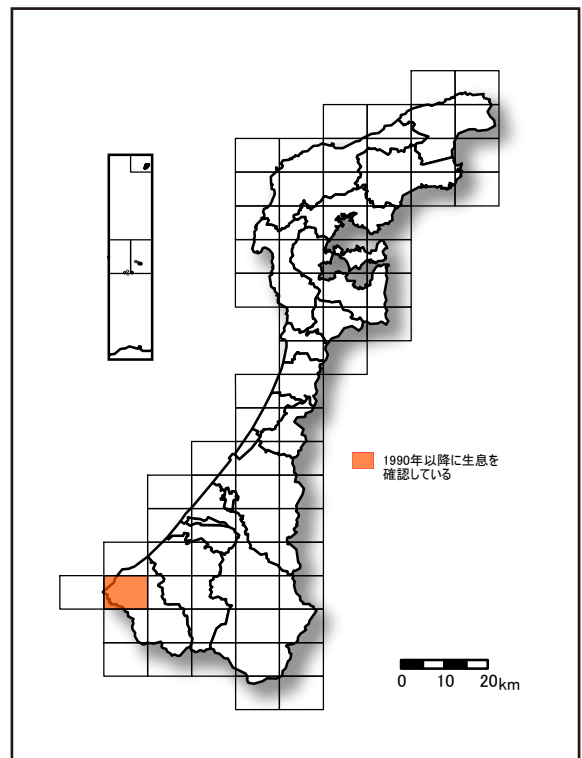
小松市や能登半島南部における本種の調査が必要である。

参考文献

田中政行ほか 1992. 秋田県未記録のヤガ. 誘蛾燈, (130) : 99-101.
富沢 章 2008. 加賀市塩屋海岸の蛾類. 誘蛾燈, (192) : 57-67.



標本提供者: 富沢章



県内の分布